

「流れる水のはたらき」の単元のとりまとめについて

第8回環境教育ワーキンググループでアイデア出しを行ったテーマのうち、「流れる水のはたらき」の単元を対象として、議題2において議論を行った方向性に沿って、具体的なとりまとめ案を検討する。

1) ワークショップで対象とする単元

流れる水のはたらき

- ・教科書（教育出版）の該当ページ→理科5年生、90ページ～107ページ
- ・教科書（教育出版）で扱っている素材
 - 川の曲がっている場所の様子、ゆるやかなところの様子
 - 川の曲がっているところの内側と外側の様子
 - 川の上流と下流の様子、石の形・大きさの違い
 - 増水時の様子
 - 川の災害を防ぐくふう

2) ワークショップの流れ

①グループごとにワークショップ実施（40分程度）

- ・教科書で扱っている内容（写真等）を意識して、釧路川（支流含む）をテーマとして収集する素材（写真、動画等）の内容、トピック、情報収集の方法、見せ方（情報のとりまとめ方）等についてアイデア出しを行い、付箋に記入いただく。
- ・釧路川管内図を見ながら、素材として活用できそうな場所などの情報についても付箋に記入して貼り付ける。

※例えば、次のようなアイデアをイメージしています。

「支流の●川の上流部は特徴的な地形なので、上流、下流の比較画像を提供すると良い」

「ここ数年で水のかで土手の浸食が急速に進んでいる場所が●●で見られ、浸食される前と現在とで比較すると良い」

「河川に子ども達でもアプローチできて、教科書で紹介しているような場所が見られる場所は●●がある」

「川の上流から下流までの特徴を紙媒体で巻物のような見せ方をしたら面白いのでは」

②各グループから出された具体的なとりまとめ案の共有（10分程度）

- ・終了時のそれぞれの担当グループから代表1名により説明